# 特集　多くの人が待ち望む陸羽東線の早期復旧

# 地域をつなぐ鉄道
# 待ち望まれる運行再開

令和６年１１月号で掲載しました陸羽東線の早期復旧に向けた要望書への回答がありましたので、町民の皆様にお知らせします。

みんなが待ち望む陸羽東線の復活

町は早期復旧を求める要望書を提出

令和６年１１月に JR 東日本東北本部に書面にて要望した「陸羽東線の早期復旧に向けた要望書」に対する回答が、３月２８日付けでありました。今後町はこの回答を受け、早期運行再開を目指してＪＲと協議を続けてまいります。

また、鉄道に多くの可能性があることを信じて活動する市民団体「りくとうサポーターズ」の活動や、通学で利用していた高校生の陸羽東線に対する思いをお伝えします。

## ＪＲからの回答内容

昨年７月、２度に渡って発生した豪雨により、被害を受けたＪＲ沿線における国有地の復旧工事は、５月中旬に工事業者が決定し、今後工事が始まっていきます。工期は５月15日から12月26日の予定です。ＪＲでは、今後も、国有地の復旧工事に対する協力など、調整を進めるとの回答です。

また、陸羽東線の復旧については、ＪＲの線路等と隣接する各施設の管理者や地権者との調整が必要になった際に、円滑な調整ができるよう、町に対し協力要請がありました。

さらには、今後当町において再び災害が発生する可能性も考慮し、国や県等と連携して、ＪＲ沿線の水害防止対策を推進して欲しいとの要望もいただきました。

陸羽東線は少子高齢化の進行等により利用者が減少していることから、ＪＲと沿線自治体で陸羽東線を持続していくために何が出来るかも含め、持続可能な今後の交通体系のあり方について議論・検討していきたいとのご回答をいただきました。

## ＪＲの回答を受けて

●被害箇所の全容の把握のため、被害箇所の詳細な情報（被害箇所の状況や土砂の流入元になった関係地権者の内訳等）の収集に努めます。



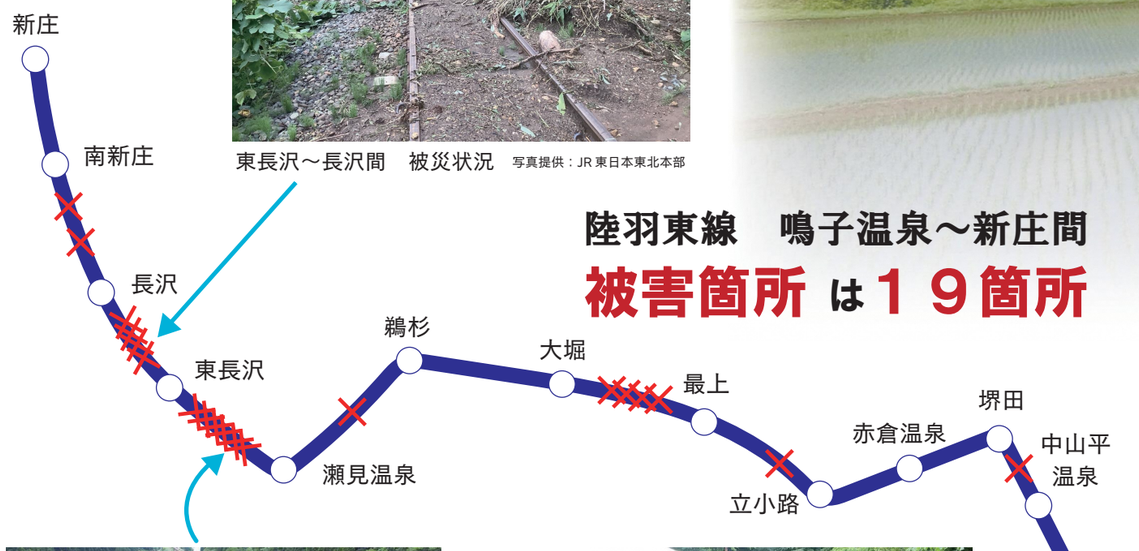
## 令和６年に発生した豪雨災害に伴う被害箇所と状況

２０２４年８月２８日
JR 東日本東北本部
プレス資料より抜粋

※災害箇所に関する写真は全てＪＲ東日本東北本部より提供を受けています。

東長沢～長沢間　被災状況　写真提供：JR 東日本東北本部

### 陸羽東線　鳴子温泉～新庄間
### 被害箇所 は１９箇所



写真提供：JR 東日本東北本部

現場写真

瀬見温泉～東長沢間　被災状況　写真提供：JR 東日本東北本部

●被害箇所の詳細な情報を把握することにより、国や県等との連携による水害防止対策に取り組みます。

●ＪＲの早期運行再開を見据えつつ、令和７年度中に公共ライドシェア（注１）の実証実験を行い、地域の移動手段の確保に取り組みます。

## 今後の町の取り組み

今後、町は鉄道をこれまでに増して重要な地域公共交通機関として位置付けすると共に、町内の関係機関や団体、また、陸羽東線と沿線地域の活性化を目指して設立された住民団体「りくとうサポーターズ」等の有志グループと連携を図りながら、さらにＪＲと沿線自治体と連携した取り組みを通じて、陸羽東線の早期運行再開を目指し取り組んでまいります。

町民の皆様には引き続き、まちづくり懇談会や広報もがみ、公式ホームページ等を通じて情報を提供します。

（注１）公共ライドシェアとは、交通空白地における移動手段の確保を目的として、自治体やＮＰＯ法人などが、自家用車（白ナンバー）を活用して有償で旅客を運送するサービスです。

# 鉄道で広がる可能性　次の一歩をともに

今後、陸羽東線を持続していくために、私たちが今できることは何か？今も多くの方が、早期復旧と運行再開後の陸羽東線の動向に注目しています。本ページでは沿線沿いの活性化に向けて活動する市民団体「りくとうサポーターズ」、更には、その代表を務める大石紳一郎さんの取り組みについてお伝えします。

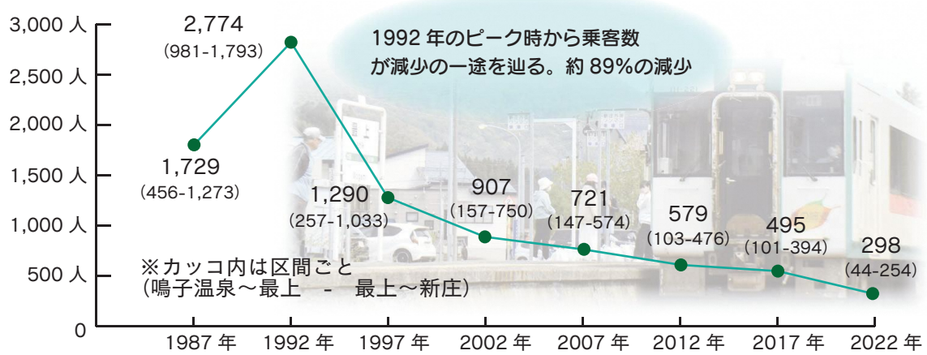
## 乗客数が減少する中でも、走り続けてくれた

### ２０２３年の平均通過人員（人／日）

**鳴子温泉 ～ 最上　５１人　　最上 ～ 新庄　２２９人**

昨年ＪＲが公表した東日本管内での「利用の少ない線区」のデータによると、陸羽東線の「鳴子温泉～最上間」の一日当たりの乗客数が５１人。これはＪＲ東日本管内で最も少ない利用者数とのこと。１００円の運輸収入を得るために要した営業費用は１３，４６５円となり、管内でも３番目に不採算の路線であり、また、最上～新庄間については３，００２円という状況だった。

### 陸羽東線の１日当たりの平均通過人員（人／日）




※JR 東日本の HP から参照した平均通過人員です。



## 町民４，１９２筆の思い　陸羽東線運行再開を願う

### 町の交通網の一部である陸羽東線の今後は？

多くの町民の方がご存じの通り、陸羽東線は年々乗客数が減少しています。ＪＲ東日本が昨年の10月に発表した、令和５年度の「路線別の利用状況」では、乗客数が過去最少を記録しました。（右下グラフ参照）

乗客数減少の原因としては、少子高齢化、人口減少、車社会の浸透、道路が整備されたなど、様々な理由が考えられます。こうした中でも同線はこれまで町の一次交通として、その役割を果たし、町の発展に大きく貢献してきました。

陸羽東線は１９１７年（大正６年）に開業。今年で１０８年を迎え、その長い歴史の中で今や陸羽東線の存在が、当たり前と感じている方も少なくないのではないでしょうか。

しかし、昨年の豪雨災害から運休となり、今もなお復旧の目途が立っていません。町民の方からは「列車が走っているところを見れなくなってしまうのか」と不安の声も耳にします。

### 多くの町民の方が陸羽東線の早期復旧は必要と判断　要望書に多数賛同

こうした状況の中、昨年11月22日に陸羽東線の「早期復旧を求める要望書」に対し、多くの町民の方から署名をいただきました。総署名数１７，９１９筆に対し、町民の方々からいただいた署名は４，１９２筆で、多くの皆様から復旧に対し賛同を得ています。

この要望書は「りくとうサポーターズ」によって提出されました。同団体は陸羽東線の存続問題やＪＲを含めた沿線地域の活性化に向けて活動する市民団体です。宮城県側にも同じく組織されており、山形県側は、大石紳一郎さん（向町地区）が代表を務めています。

### 廃線を阻止したい　まずは沿線地域の活性化

りくとうサポーターズの大石代表は、乗客数の減少により、廃線となってしまうのではという危機感から山形県側の代表を引き受けました。「鉄道は繋がっていることが魅力なんです」と語る同氏は、地域を活性化させたいという思いから、株式会社まちプランニングもがみを経営しながら、同団体の活動に日々取り組んでいます。

同団体は、昨年５月31日に結成され、沿線地域の活性化に向けたイベントの企画や、過疎地域での交通網の確立といったことが主な活動の予定でした。しかし、結成約１か月後に発生した豪雨災害で、陸羽東線は不通となってしまいました。本来の活動ができない状況から、何か力になれないかと考えた大石代表は、陸羽東線の「早期復旧を求める要望書」の署名集約に取り組みました。

集約活動では、多くの団体へ１軒ずつ訪問し署名を依頼。その結果、当初１０，０００筆を目標としていましたが、予想を上回る筆数になったと語ります。「廃線阻止の活動も必要ですが、まずは復旧してもらうための活動が大事。」また、同氏は沿線地域の活性化に向けて愛着と感謝をもって活動していくことが必要だと話します。

りくとうサポーターズ　山形県代表　大石紳一郎

## 復旧後は貸切列車のイベントを再企画

今年の1月25日に、最上駅公民館で行われた、「りくとうサポーターズ設立説明会＆Nゲージ展」には町内外から鉄道ファンや家族連れが集まり、賑わいを見せました。大石代表は、「設立説明会の当日に豪雨災害があり説明会が延期になっていた。遅れた形になったが、町民の皆さんに、設立の経緯や協力の依頼が出来て本当に良かった。」また、「設立説明会当日にNゲージ展も開催し、このような取り組みが、陸羽東線復活の機運醸成になればと願っています。」と話してくれました。

今後も復旧に向けての活動を続けていくという大石代表。「宮城県の沿線沿いの仲間とともに駅で盛り上がるようなイベントを企画して、鉄道を利用する人を増やしていきたい。昨年、豪雨災害で開催することが出来なかった町制施行70周年記念事業の貸切列車で行く松島の旅は復旧後に再企画したいです。多くの町民の方々に陸羽東線の魅力を感じて、日々の利用促進に繋がってほしい。」と話してくれました。

復旧後の利用促進は、町全体で考えていかなければならない課題です。また、沿線の地域を盛り上げていくには線路でつながる地域の連携が必要不可欠です。その架け橋として、「鉄道で広がる可能性」を信じて活動する大石代表のこれからに注目です。

## 私たちと一緒に、沿線を盛り上げませんか？

～りくとうサポーターズ大募集～

＊陸羽東線沿線市町村の活性化に資する事業の開催
＊駅からの２次交通問題の解決に向けた活動

〇お申し込み先　最上駅　０２３３－２９－８８２２(平日のみ)
入会金　５００円（会員バッチプレゼント）

１月に行われたＮゲージ展。町内外から鉄道ファンが訪れた。

## りくとうサポーターズを代表して町民の皆様へお願い

早期復旧に向けた署名活動に対し、皆様からのご協力誠にありがとうございました。おかげ様で、現在、林野庁による一部沿線の堰提工事の業者が決まったところです。JR の駅が７つもある当町にとって、廃線は利便性はもちろんのこと、廃れたイメージとなり、大きなマイナスになると思います。現在、代行バスで代替措置を行っていただいておりますが、目指す先は早期復旧です。鉄路は我が町にとって、道路と同じく重要な交通網の一部です。陸羽東線が不通となっている今も不便を感じている交通弱者がいることをご理解いただき、今後も早期復旧に向けてお力添えをお願いいたします。

**りくとうサポーターズ　山形県代表　大石紳一郎**

## 東日本旅客鉄道労働組合
## 最上ふれあい学園に
## 列車の旅をプレゼント

東日本旅客鉄道労働組合仙台地方本部から、最上ふれあい学園（万騎の原）に列車の旅がプレゼントされました。この企画は、長年赤倉温泉駅で清掃活動を継続している同施設の利用者のみなさんに感謝の気持ちを伝えるとともに、実際に鉄道を利用してもらうことで、鉄道設備やサービス内容の充実につなげることを目的としています。当日は、30 名の学園利用者の方が、列車の旅に参加されました。

また、当日はりくとうサポーターズの皆さんも同行し、JR と地域を結ぶ架け橋として活動してくれました。

## 列車で一緒に通う友達や先輩、後輩達との時間が青春
## 「高校最後の年、列車で通学したかった」

新庄市内の高校に通う加藤公大さんは部活動や自主学習に一生懸命な高校３年生です。平日はほぼ最終便の代行バスで帰ってくるという加藤さんは、列車内でのコミュニケーションに青春を感じていました。「列車での時間は、親しい人たちと関われる大切な時間でした。また、列車は代行バスと違い、車内が明るいので学習も出来ましたし、半分の時間で通学できていました。部活動で疲れた状態で代行バスに長時間乗車するのは大変です。」と語ります。

また、陸羽東線復旧についての思いを伺ったところ、「本数を減らしてもいいので、列車で通学したい。列車で通学していた楽しかった日々は忘れられません。最上町の列車通学だった高校生は、運行が再開されることを本当に心待ちにしています。」と話してくれました。陸羽東線とまた会えるその日まで、加藤さんは列車で過ごした青春の続きとの再開を今も待っています。

加藤　公大（きみひろ）さん（赤倉地区）
山形県立新庄北高等学校３年生

# あなたの乗車が未来を創る

多くの方が復旧を望む陸羽東線。少子高齢化、車社会の浸透により、利用率の低下が続いてきた一方で、不採算でも運休になるまで走り続けてくれました。

皆さんは運休になるまで、年に何回利用できただろうか。また、今後私たちには何ができるのか。それは陸羽東線のありがたさや感謝を忘れないこと。そして、沿線地域の発展を支えてきた同線を応援すること。

鉄道は、人や地域の魅力を繋ぐ大切な移動手段です。沿線に住んでいる私たちが未来に向けて、鉄道を守り育てていくべきです。今や社会問題となっている人口減少、少子高齢化は、当町においても大きな課題ですが、私たちの生活に鉄道は必要不可欠です。陸羽東線が運行再開された際には、皆で利用しましょう。

その先に続く、陸羽東線と町が一緒に走り続けてきた歴史のページを途絶えさせないために。

ー　特集　完　ー